

らい病人のきよめ

G. C. ウィルス著

THE LAW OF THE LEPER

by

G. C. WILLIS



伝道出版社

らい病人の
きよめ

G. C. ウイルス 著

伝道出版社

THE CLEANSING OF THE LEPER

A Study of Leviticus 13 & 14

by

G.C.D. Willis

EVANGELICAL PUBLISHERS
Tokyo, Japan

目次

目次		
序	3	
第一章	らい病	5
第二章	らい病が全身をおおう	24
第三章	「確かに汚れている」	31
第四章	「汚れている、汚れている」	34
第五章	神のきよめの方法	37
第六章	二羽の生きているきよい小鳥	45
第七章	毛をそり落とし、水を浴びる	60
第八章	天幕の外にとどまる	71
第九章	再び毛をそり落とし、水を浴びる	75
第十章	八日目	79
第十一章	罪過のためのいけにえの羊	90
第十二章	一ログの油	95

第十三章	現在への適用	102
第十四章	貧しい私たち	109

序

私はこの「らい病人のきよめ」を非常に興味深く読み、また、すべての点で大いに教えられました。私が好感を持てたのは、著者がこの本の中で、らい病そのものについて詳しく述べていないということです。聖書自体がそうしていないことはなお興味深いことです。罪が罪であるように、らい病はらい病なのです。私たちが神の前に罪ある者とされるのは、表面に現れる罪の行いの形やその回数によるのではなく、私たちが本質的に罪人だからです。このわけで、レビ記によれば、らい病は客観性に基づいてのみ診断されなければなりませんでした。大切なのは、らい病人がどのように感じ発言するかではなく、祭司が見てどう判断するかでした。らい病人のきよめのときにも、きよめに用いられるものは、外部からその人に客観的に適用されます。その人をきよめるものが、その人の内部から沸き上がって来るのではないからです。らい病人が宿営に帰ることができるのも、その人自身の願望や宿営の中にいる人々の意志によるのではなく、ただ神の律法によってのみ可能なのです。そして祭司は、その神の定めに厳密に従わなければなりませんでした。同様に私たちも、自分がどう思うか、実感がわくかどうかどうかに関係なく、「すべての人は、罪を犯したの

で、神からの栄誉を受けることができず」(ロマ三・二三)と神が宣言しておられるから罪人なのです。

この、らい病人とそのきよめについての非常に興味深い旧約聖書の規定の真の靈的意味は、新約聖書のみことばによって完全かつ十分に解き明かされている、と私は考えます。論旨全体が私たちの救いにおける神の力の絶大さと、人間の完全な無力を教えています。

どうか主が、栄えに満ちた神の御国の到来の日のために、この冊子を祝福して用いてくださり、キリストなしに私たちは何もすることができないということを罪人たちに示してくださいますように。

L・S・ヒューゼンガ

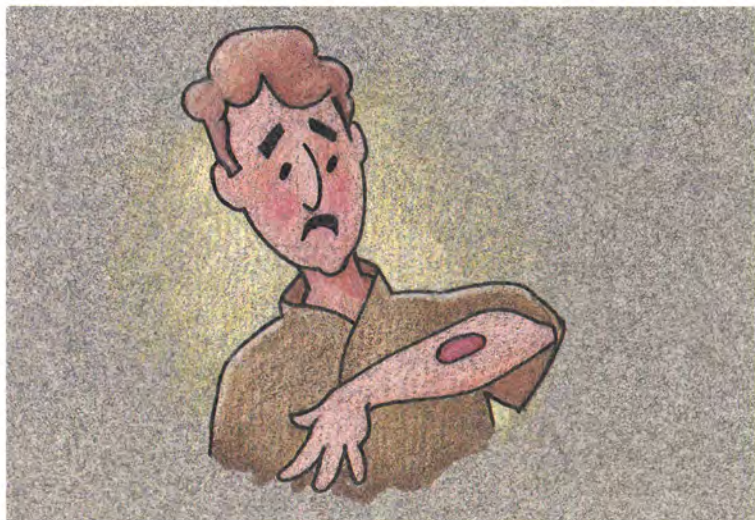
第一章 らい病

聖書、特に旧約聖書は、私たちの主イエス・キリストについての、または主イエス・キリストに関する事柄についての非常にすばらしい型に満ちていることを、読者の多くは知っておられることでしょう。新約聖書ではこれらの型を「影」（コロニ・一七、ヘブ八・五、一〇・一）とも呼んでいます。「律法には、後に来るすばらしいものの影はあっても」と記されているとおります。これらの「影」の中には真理が非常に明瞭に、詳しく示されているものもあるので、これらの「影」のあざやかさと美しさにおどろかされます。

これらの美しい影の中でも、「らい病に関する律法」のように美しく、また詳細にわたる「影」は多くはありません。

らい病はすべての病気の中で最も忌み嫌われるものの一つです。らい病は死に至るばかりでなく、他のどんな病気にもまして、いのちの中に死が入り込んだときの明瞭な型です。その人は生きてはいても、らい病に冒された部分は死んでいるからです。

らい病の初期は、最初に罪に陥るときに似ています。初めは小さく、ひそかに進行し危険とは思われません。レビ記第一三章二節には「光る斑点」とあります。罪と同じように



らい病の患部がある

レビ 13・2



祭司のところに連れて来る

レビ 13・2

らい病も初めは恐ろしいものと思われませんが、光って魅惑的にさえ見えませんが、実際にはそこに死が入り込んだのです。らい病が確実に死で終わるように、罪の支払う報酬も死です。

らい病は肉体のどの部分でも冒します。らい病人が汚れているとされるのは、その行為が汚れているからではなく、彼がらい病人であるからです。私たちは各々、「ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました」（詩五一・五）と言わなくてはなりません。私たちは罪に汚れた者として生まれました。私たちが汚れているというのは、私たちの行動が汚れているからだけではなく、私たちそのものが本質的に罪に汚れているからです。ですから、らい病人はきよめのために祭司のところに（医者のところではなく）行かなければなりません。それは、らい病がいやしの問題だけではなく、きよめの問題でもあったからです。このように、らい病は罪を最も適切に表している型であることが分かります。

罪と罪のきよめとは、創世記の初めから黙示録の終わりに至るまでの聖書全巻の主題で、特にレビ記第一三、一四章にはこの主題が力強く、また巧みに表されています。それで、私たちは、このようにすばらしい型は神の御手以外のどのようなものによっても作り出され得なかったし、このようにおどろくべききよめの方法も、神の愛による以外、他の何も